

総合資料館だより

2005. 1. 1 No.142



▲「鶏」(高さ8.4cm)と「鶏抱き童子」(高さ23cm)

伏見人形の「鶏」

「酉」(ユウ、とり)は、十二支の十番目。「鶏」は、ヒモでつないで飼った鳥のこと、古代から家禽として親しまれてきた動物です。瑞鳥、霊鳥と言われることもある鶏は、その鳴き声で魔物を追い払うといった民間信仰的な伝承もあり、郷土玩具にも多く見られます。

伏見人形には、いろいろと面白い型のものや、優れたデザインのものがありますが、「鶏」そのものの形象としては意外と単一なものとなっています。そうした中であって、鶏を胸元に抱えた子どもを人形にした「鶏抱き童子」は、動物と子どもの関係が穏やかに表現されていて、心の温かさが伝わってくる優れた造形となっています。

当館蔵(京都文化博物館管理) みかづき 拙コレクションから

目次	伏見人形の「鶏」……………	1	平成17年知事年頭あいさつ……………	2
	歴史資料課の窓から「美術学校放浪記」…	3	企画展「京の商い～『京』ブランドの今むかし」…	4
	文献課の窓から「『湯豆腐』今むかし」…	6	最近の収集資料から……………	7
	友の会事務局から 他……………	8		

平成17年知事年頭あいさつ



とも つく にんげん 共に創ろう「人・間中心」の京都づくり

京都府知事 山田 啓二

府民のみなさま、新年あけましておめでとうございます。

振り返りますと昨年は、日本経済に薄日が差してきたとはいえ、日本列島を多くの台風や、また新潟県中越地震などの災害が襲い、大変厳しい1年となってしまいました。京都府におきましても、鳥インフルエンザや台風23号災害などにより生活を脅かされた方々も多く、今も被災地では復旧のため懸命の努力が続けられていることと思います。改めて心からお見舞い申し上げます。

京都府といたしましても、府民の安心・安全を守り支えるため精一杯取り組んできた1年でもありましたが、今年もみなさまの生活を守るため、全力を尽くさなければならないと、誓いを新たにしているところであります。

しかしながら、私どもを取り巻く課題は災害だけではなくありません。昨年は青少年による犯罪や青少年が被害者になる犯罪が相次ぎ、不登校の問題、児童虐待の問題など多くの心を痛める事件がおきました。今、経済・物質優先の社会から、私たちはもう一度「心」優先の社会を希求する必要があると思います。

そのためにも私は、府政において、素晴らしい自然や文化など「京都ならではの財産」を有効に活かしながら、人を大切に、人と人との交流を盛んにし、さらには人々の交流を支える基盤に投資していく「人・間中心」の京都づくりの実現に向けて、積極的に取り組んでまいりたいと決意であります。

そして、こうした取組を進めるためにも、「信頼」と「絆」による新たな京都の「創造」をキーワードに、地方主権・地域自立の時代にふさわしい、

- ①次代を担う“京の子ども”を育む「学びと子育ての京都」
- ②住み慣れた地域で健やかに充実した生活がおくれる「健康長寿の京都」
- ③京都が培った人材や知的資源・文化価値・ネットワークによる「活力の京都」
- ④快適な環境や文化的雰囲気など個性ある地域をつくる「環境・文化創造の京都」
- ⑤すべての府民が安心して日々の生活がおくれる「安心・安全の京都」

この5つの京都の実現に向けて、府民のみなさまの知恵と力もお借りしながら、一步一步着実に前進してまいりたいと考えております。

本年2月には、いよいよ「京都議定書」が発効し、世界が地球温暖化防止に向けて動き始めます。私どもは議定書誕生の地としてその名に恥じぬよう、美しい京都を守っていかねばなりません。

新たな「西」^{とり}年が、昨年来の災いを取り払い、そして大きな夢と希望に向かって力強く勇気をもって翔たく1年となりますよう、本年も府民のみなさまの変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

結びに、みなさまのご健勝とご多幸を心からお祈りいたします。

美術学校放浪記

明治13年7月1日、日本最初の京都府画学校が開校され、京都の美術教育は始まります。東京美術学校開校の7年前のことです。京都独特の風土の中で育まれた、伝統産業との結びつきなども考慮した上で、田能村直入らにより設立の建議書が出されました。京都府行政文書の中の『府立学校沿革誌』には、「本校ノ目的ハ絵画學術ヲ振起シ工芸ノ基礎ヲ訂正シ以テ文化ヲ補ヒ財源ヲ深クセントスルニ在リ」とあり、当時、美術教育をどのような形で捉えていたかを窺い知ることができます。

明治22年12月17日、内務省令第1号により、京都市がその一切を引き継ぎ、京都市画学校となりますが、「本校ハ設立以来寄付金及ヒ特別補助金雜入金以テ至便セシ物ナリ」と、京都府の勸業課が引き続き補助金を出しています。府民や画家達の希望の下に設立された画学校でしたが、設立当初から運営のための財源の一部を、学校開催の展覧会出品作の販売収入に頼り、歳入確保のため作品を安く売り急ぎ、画家と府勸業課との間で意見の違いが生じることもありました。会期中に販売しようと思わずに、じっくりと希望者を募って欲しい旨の学校側からの要望書なども出ています。

このような財政事情の中で設立された画学校は、明治13年6月17日、上京第十一番組中筋町の准后里御殿を仮校舎としますが、台風のため校舎が破損すると、同15年10月9日、河原町二条南の旧織殿内に移転、同18年6月1日には西隣の旧勸業場へ移転します。また、市への移管に先立つ明治22年10月10日、御苑内の京都博覧会本館に3度目の移転をしています。明治23年3月23日、華頂山知恩院通照院に移転、翌24年1月18日には京都府の補助金打ち切りが確定し、市会は、官立の美術工芸学校設立の具申書を内務大臣及び文部大臣宛提出する決議をしています。同年4月1日には、京都市美術学校と改称、校則の改訂を行っています。

明治25年7月、京都御苑内東南隅を宮内省から7か年の期限付きで借り受け、初めて校舎新築に着手します。翌26年に、元府知事北垣国道から上京区岡崎の土地（後に第4回内国勸業博

覧会会場用地となる）の寄付を受け、この土地の小作料、そして売却代金が新校舎設立資金となって、京都御苑内東南隅に完成移転します。

明治27年8月8日、京都市美術工芸学校と改称、10月17日には東京から今泉雄作を校長に迎えて、組織人員の充実を図ります。今泉は、京都市在住子弟の学費無料化や、特待生の教材無料化などに積極的に取り組み、その予算措置としての国庫補助金増額の請願を国に対して行います。また、明治29年1月7日付け、校旗購入伺いが残されていますが、学校のシンボルである校旗を作成することで、学校としての形作りにも積極的に取り組んだ様子が窺われます。



▲校旗制作図

今泉は、明治31年1月31日、病気のため退職するまでの3年余の期間に、教員の任用（横山大観の任用・退職もこの間の出来事です）、俸給の増額、教員用教材の購入、校舎の修復と拡充等を積極的に行っています。この時代に京都市美術工芸学校の基礎が出来たとと言っても過言ではありません。

このように明治13年の開校以来、京都の地を転々とした美術学校は、明治40年に吉田（現京都市立第四錦林小学校）に安住の地を得ました。明治40年の『工業学校』の簿冊には、京都市美術工芸学校の新築移転に伴う図面（当時の京都の様子が窺えます）や、稟議書が多く綴じられています。同年、京都市美術工芸学校の高等専門機関として、絵画専門学校（現京都市立芸術大学）の併設が申請され、明治42年、認可されて、京都市美術工芸学校に一時間借りすることが決まります。絵画専門学校は翌43年、美術工芸学校の南隣に新校舎を建設し、現在の京都の美術教育の基盤を確立することになります。

（歴史資料課・行政文書担当 大西基子）

京の商い～「京」ブランドの今むかし

会 期 平成17年2月16日(水)～3月20日(日) (3月9日(水)は休館)

午前9時～午後4時30分

会 場 京都府立総合資料館 2階展示室 (入場無料)

■列品解説 2月19日(土)、3月11日(金) 午後2時～ (事前申込不要)

■記念講演(府民講座)

◇3月2日(水) 午後3時～

芳賀 徹 氏 (京都造形芸術大学学長)

演題「(未定)」

◇3月17日(木) 午後2時～

赤井 達郎 氏 (奈良教育大学名誉教授)

演題「京菓子の今昔」

※受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、3日前までに、はがき、

F A X又はメールでお申し込みください。*満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4 京都府立総合資料館 庶務課

TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466 メール shiryokan-shomu@mail.pref.kyoto.jp

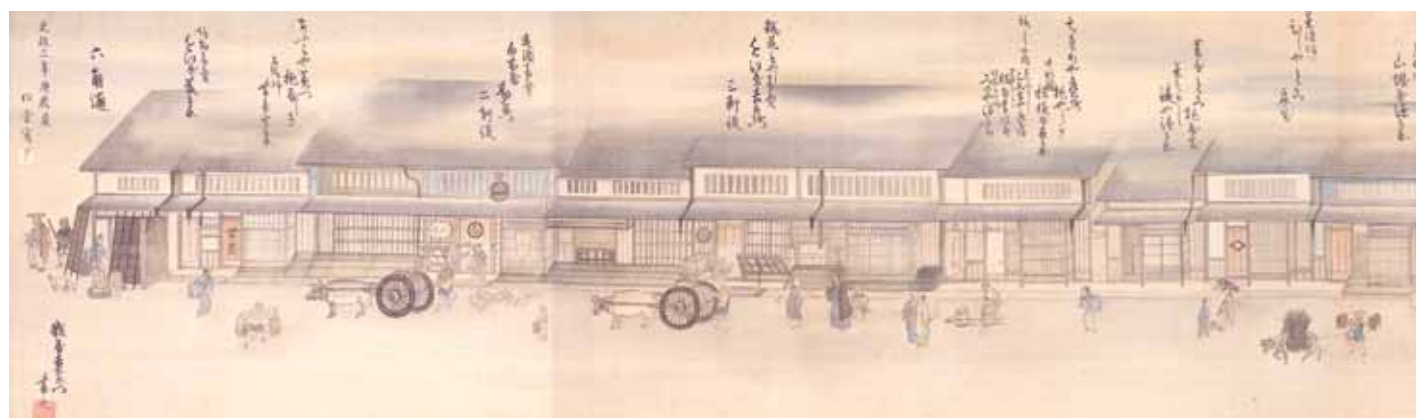
京都は、古くからの都であるとともに、産業・商業都市の性格を併せ持つ日本の代表都市であり、時代の変革の波に度々洗われながらも、よく順応して常に別格の現役都市として存在してきました。

しかし、江戸時代後期以降、全国各地における商業や産業の発展により、その優位性に陰りが見え始めます。そこで、培われてきた技術や確立された商品の質等を打ち出すため「伝統と文化の京」が強調されます。いわゆる「京」ブランド商品の成立です。

その背景には、公家や寺社等様々な文化が相互に刺激し合いながら成立してきた京都文化の

伝統があり、その中で育まれてきた職人の技、商人の知恵がありました。その後、明治維新や第二次世界大戦後の混乱、東京一極集中の政治経済体制等、様々な試練に直面しますが、京都の人々は培ってきた知恵と技で多くの困難を乗り越え、新しい価値をも付け加えながら、「京」ブランドは高い評価を保っていきます。

この展覧会は、京都ブームといわれる今、「商い」を柱にしながら、「京」ブランドが成立した背景と歴史を3部に分けて紹介し、そのことの持つ意味の一端を考えていこうとするものです。



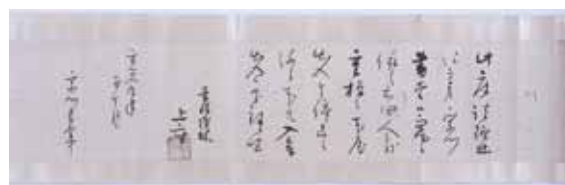
第Ⅰ部 京都の町と「京」ブランド

近世の京都というと江戸・大阪に比べて影の薄い印象ですが、実は産業・商業都市として日本の中で重要な位置を占め、伝統のイメージを持つ「京」ブランドを全国に広め定着させていたのです。このように「京」という冠をつけることがブランドとして成立したのは、京都が平安京以来の都であり続けた歴史と伝統、その間に培われた確かな技術力が基礎になっています。

第Ⅰ部では、「京」ブランドを生み育んだ京都の町の歴史とその独自性について紹介します。



▲有職切類（原家文書）



▲法義三大部書翰

第Ⅱ部 町の風景・職人と「京」ブランド商品

京都文化の形成に大きな力を持った公家や寺社・家元等が使用した工芸品は、形態や意匠に高いレベルの感覚や技術が要求されます。客からの厳しい注文をこなしていくことが職人の技を鍛え、強い商品力を作り出していくことに繋がっていきます。



▲九重扇十二種意匠帖

第Ⅱ部では、代表的な商いの風景や職人の姿と、数ある「京」ブランド商品の中から、染織・扇・陶器・菓子等について紹介します。



▲新年菓帖（右は表紙）

第Ⅲ部 明治以降の「京」ブランド

「京」ブランドは、高度な技術と感性を常に磨きながらも、新しい工夫や斬新な発想を取り入れながらその地位を保ち、また広げてき



▲京焼の洋食器（明治12年）

ました。明治以降においては、新しい西洋文明を取り入れ融合させながら、また、現代においてはよりグローバルで戦略的な形で展開されようとしています。



▲京都製茶会社 紅茶レッテル

第Ⅲ部においては、京都の持つ文化的特性を生かし、試行錯誤を重ねながら成り立っている近現代の「京」ブランドのありようを紹介します。

▼三条油小路町西側町並絵巻（近江屋吉左衛門家文書）



「湯豆腐」今むかし

当館では、2月16日から企画展「京の商い～『京』ブランドの今むかし」を開催します。今回は、その中から、湯豆腐に焦点をあてて紹介してみたいと思います。

湯豆腐と言えば、南禅寺三門の北側に、創業寛永12(1635)年と伝えられる老舗があります。歴史を遡ると、江戸時代には、南禅寺の参道に3軒の「丹後屋」という茶店があり、豆腐料理を出していました。西から「前の丹後屋」、「中の丹後屋」、「奥の丹後屋」と呼ばれ、この奥の丹後屋が現在の「奥丹」の前身と言われている。当初は、「瓢亭」と道を挟んだ現在の「無鄰庵」の場所にありました。その様子は元治元(1864)年に刊行された『花洛名勝図会』に載っています。これは、京都最初の名所図会である『都名所図会』の改訂増補版で、内容は同書よりはるかに詳細を極めています。当初は、六編(洛陽、東山、北山、西山、八幡・宇治、拾遺)を予定していましたが、「東山の部」のみが刊行されたため、『東山名所図会』とも言われています。ここでは、「丹後屋の湯豆腐は昔からの名物で、旅人は必ず賞味し、瓢亭と共に両店の繁盛ぶりは例えようが無い」と記されています。

この様子を寛政11(1799)年刊行の『都林泉名勝図会』で確認してみましょう。こちらは、『都名所図会』の著者・あきざとりとう秋里籬島の作品で、洛中洛外の名庭園を図説した案内記ですが、庭



▲『東山名所図会』

園の専門書ではなく、『都名所図会』と併せ読むことで、江戸時代後期の京都を知ることができるように配慮されています。本書では、「名物南



▲『都林泉名勝図会』

禅寺前湯豆腐店」として「丹後屋」の賑わいが大きく描かれています。その絵をよく見てみると、現在の湯豆腐には必須の鍋や七輪は見当たらず、平らな碗が見られます。

湯豆腐と言えば、だし昆布とたっぶりの湯が入っている鍋から浮き上がって来る豆腐をすくい取り、つけ醤油を付けて食べる姿を思い浮かべるでしょう。しかし、江戸時代の南禅寺豆腐は現在の湯豆腐とは違う料理だったようです。約百種の豆腐料理を記載した、天明2(1782)年刊行の『豆腐百珍』には「高津湯豆腐」として「絹ごし豆腐をたいて、熱い葛あんをかけ、芥子を添える。又、南禅寺豆腐とも言う」とあるのです。江戸時代の湯豆腐はあんかけ豆腐だったようです。では、当時、現在のような鍋物の湯豆腐が無かったのかと言うと、前述の『豆腐百珍』では、「湯奴」として紹介されています。「大阪では湯奴と言うが、京都ではただ湯豆腐と言う」とあるのです。

その後、明治27年に山県有朋が奥の丹後屋があった場所に別荘「無鄰庵」を造営したため、「奥丹」は現在の場所に移転したそうです。

展覧会では、この他にも京の商いについての資料を多数展示します。ぜひ一度お立ち寄りください。

最近の収集資料から(平成16年9月～11月)

◆図書資料

〈京都〉

福知山の民話と昔ばなし集 福知山人材銀行民話昔語郷土史語り部編 民話昔語郷土史研究会 2004 305, 7p 寄贈

文化開発の可能性 コラボレートする山科からの提案 織田直文・木下達文編 晃洋書房 2004 183p 寄贈

鹿苑寺と西園寺 有馬頼底監修 鹿苑寺編 思文閣出版 2004 183p 寄贈

東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像 東京文化財研究所美術部編刊 2003 93p 寄贈

丹後由良 四方寿朗写真集 四方寿朗著 あまのはしだて出版 2003 231p 寄贈

京都学派の思想 種々の像と思想のポテンシャル 大橋良介編 人文書院 2004 301p

賀茂社 上賀茂神社・下鴨神社 三好和義ほか著 淡交社 2004 141p

幕末・維新彩色の京都 白幡洋三郎著 京都新聞出版センター 2004 133p

京都の洋館 The 40 European-styles in Kyoto 青幻舎 2004 111p

京都の和菓子 老舗の味へおこしやす 井上由理子著 宮野正喜写真 学研 2004 127p

京都秘蔵の庭 水野克比古写真 小笠雅章文 光村推古書院 2004 134p

京都市電の廃線跡を探る 中村浩史著 岐阜新聞社 2003 144p

〈人文〉

栄光のオランダ・フランドル絵画展 神戸市立博物館・読売新聞大阪本社編 読売新聞大阪本社 2004 206p 寄贈

牛腸茂雄展 A retrospective 牛腸茂雄撮影 東京国立近代美術館編刊 2003 63p 寄贈

七夕の紙衣と人形 石沢誠司著 ナカニシヤ出版 2004 224p 寄贈

神坂雪佳 琳派の継承・近代デザインの先駆者 神坂雪佳画 京都国立近代美術館 2003 355p 寄贈

天神縁起の系譜 研究・資料篇 須賀みほ著 中央公論美術出版 2004 562p

天神縁起の系譜 図版篇 須賀みほ著 中央公論美術出版 2004 211p

日本彫刻史の視座 紺野敏文著 中央公論美術出版 2004 884, 12p

PERSONA 鬼海弘雄著 草思社 2003 1冊

日本における戒律伝搬の研究 元興寺文化財研究所 2004 145, 115p 寄贈

天武・持統朝 その時代と人々 春季特別展図録 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館編刊 2004 88p 寄贈

日本宗教史年表 日本宗教史年表編纂委員会編 河出書房新社 2004 697, 26p

近現代日本人物史料情報辞典 伊藤隆・季武嘉也編 吉川弘文館 2004 455p

詞源要略 [清原宣賢著] 龍谷大学 2004 284p 龍谷大学善本叢書 寄贈

著作権白書 文化的側面からみて 著作権情報センター 2004 175p 寄贈

中央大学所蔵名鑑類解題目録 中央大学図書館編刊 2004 45p 寄贈

日本交通史辞典 丸山雍成・小風秀雅・中村尚史編 吉川弘文館 2003 947, 124p, 図56p

〈官庁〉

農林漁業金融公庫五十年史 農林漁業金融公庫編刊 2004 777p, 図6枚 寄贈

京都府の地震と活断層 京都府編刊 2004 12p

土地分類基本調査 大江山・出石 5万分の1 京都府農林水産部耕地課編刊 1992 123p

Q & A市町村合併ハンドブック 第3次改訂版 市町村自治研究会編 ぎょうせい 2004 426p

国民健康保険の実態 平成15年度版 国民健康保険中央会編刊 2004 98, 759p

◆文書資料(新しく公開する資料)

土山家文書 天明5年に禁裏御所で開催された御能関係資料、土山家の由緒書他。14点。土山家は近衛府に勤める地下官人。

山城国郡村名 幕末頃の山城国郡別の村名・領主名を記した横帳。1点。

若槻幾斎関係資料 文化～文政年間の日記・和歌集など。21点。若槻幾斎は江戸後期の儒者。角倉の属吏だったが辞して聖護院村に住み、頼春水・高山彦九郎らと交流を持った人物。

桂宮家領村関係絵図 桂宮家領(川勝寺村、宿村、下桂村、徳大寺村、御陵村、開田村)の村絵図。21点。

東宮御元服御装束図 文化8年の東宮元服の儀式に関する資料。3点。

(次頁に続く)

永井尚政書状 永井尚政（淀藩主）の書状。禁裏造営の惣奉行として御所の作事に関わった時期（明暦元年か）に大老であった酒井忠勝（若狭藩主）宛に出したものと思われる。1点。

速水家文書 速水家家領の鴨川村（現在京都市南区）の絵図。5点。

左官仲ヶ間関係文書 左官職人の仲間文書。定書、触書、口上書など。文化3年～安政5年。7点

質屋廿組文書 質屋組合の活動の記録や年番月行事の取り決めをまとめたもの。文化9年～14年、慶応3年。3点。

賀茂川堤奉行角倉関係資料 安政5年の角倉氏の総領変更願書。1点。

大池表葎島一件 巨椋池の葎刈捨場流作開発にかかわる資料。京都代官小堀仁右衛門と幕府勘定奉行との往復文書等の留綴。元禄13年4月～宝永5年。1点。

法義三大部書翰 日蓮宗の学問書法義三大部の出版の権利に関して壇林（宗内学問所）と京都の版元等との書簡集。寛文9年。1点。

西京薬種商永代記録帳 薬種問屋仲ヶ間の由来・定・等を記した永代記録。宝暦8年～天保11年。1点。

総合資料館府民講座のお知らせ

企画展「京の商い～『京』ブランドの今むかし」の記念講座を、3月2日(水)及び3月17日(木)に開催します。演題・講師等詳細は、4頁をご覧ください。

友の会事務局から

◎ 10月15日、135名の会員の皆さんの参加を得て、左京区の有鄰館において秋の現地講座を実施しました。

書家の藤井館長からお話をいただいた後、陳列室へ移り、彫刻や青銅器、書や絵画など、様々な展示物を存分に観賞しました。

◎ また、見学会を、11月11日、12日の両日実施し、131名の会員の皆さんの参加を得て、福知山市の福知山城、観音寺、綾部市のゲンゼ博物苑・記念館を訪ねました。

色づき始めた木々も美しく、京都丹波の歴史に思いを馳せる1日でした。



平成17年度「友の会」会員募集

- ◆会費 年額 2,000円（4月～翌年3月）
- ◆申込方法 所定の申込用紙兼払込取扱票に必要事項を記入の上、会費を郵便局に払い込んでください。
- ◆受付期間 1月5日(水)～3月11日(金)
- ◆詳しくは友の会事務局（総合資料館庶務課内 TEL 075-723-4831）までお尋ねください。

日誌（平成16年9月～11月）

- 9. 16(木) 府民講座（第20回）開催
- 10. 1(金)～31(日) 第19回「東寺百合文書展」開催
- 10. 19(火) 第169回古文書相談
- 10. 19(火)～21(木) 収蔵展示室の一般公開
- 10. 20(水) 府民講座（第21回）開催
- 11. 11(木)、11. 13(土) 閲覧室利用調査
- 11. 16(火) 第3回古文書解読講座（初心者）
- 11. 17(水)～19(金) 第3回古文書解読講座（初心者A）
- 11. 24(水)～26(金) 第3回古文書解読講座（初心者B）
- 11. 30(火)～12. 3(金) 第3回古文書解読講座（一般A）

利用案内

休館日 祝日（日曜日の場合は、その翌日）、毎月第2水曜日、資料整理期（春期）、年末年始（12月28日～1月4日）

【1月～3月の休館日】

12月28日(火)～1月4日(火)、1月10日(祝)、1月12日(水)、2月9日(水)、2月11日(祝)、3月9日(水)、3月21日(祝)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④ ⑧ 北山駅前下車
京都バス②④⑤ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4
TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています